

新日鉄エンジニアリング株式会社

競争力強化に向けて基盤を整備 技術知見の幅広い社内共有を推進 Microsoft製品で3000人が活用する情報共有基盤を構築

■要件

新日本製鐵からの分社独立に伴い、全社的にビジネス基盤を整備している。エンジニアリング業界における競争力強化を、これまで以上に本格的に図るため、社員が持つ高度な技術的知見の幅広い共有を推進する。

■ソリューション

Microsoftのオフィス向けサーバー製品を組み合わせた新ビジネス情報基盤システムを構築し、共有を推進する。電子メールに加えてポータルサイトを構築し、組織の枠を超えたフラットな共有を実現する。

■成果

全社員が社内情報を横断的に検索・参照できるポータルサイトおよび電子メールシステムが完成した。外出が多い業務形態に合わせて、セキュリティを確保してスムーズに社外からアクセスできる環境も整備している。

技術知見の活用高度化を目指し 新ビジネス情報基盤の構築を検討

「製鉄プラント」「環境ソリューション」「海洋・エネルギー」「建築・鋼構造」という四つの分野にわたって国際的に事業を展開する新日鉄エンジニアリング。新日本製鐵のエンジニアリング部門が2006年7月に分社独立して設立された。

同社が、電子メールや電子掲示板といったビジネス情報基盤システムの再構築を検討したのは、そのころという。

経営企画部長の鈴木隆氏は「分社をきっかけに様々な業務基盤を強化するなか、情報システムの整備・高度化についても、事業特性に合わせた一層のレベルアップを検討しました」と振り返る。

プラント・建築・鋼構造物・パイプラインといった社会基盤について、設計・調達・建設・運用といった一連の業務を担うエンジニアリングビジネスは、激しい競争の時代に入っており、競争力を一段と強化することが不可欠になっている。

「エンジニアリング業務では複数の技術知見やノウハウを組み合わせるため、情報こそが競争力の源泉です。そこで、当社はこれまで以上に幅広く情報を共有・活用できる仕組みを必要としました」（鈴木氏）。

既に同社は、文書管理システムやファイルサーバーで、プロジェクトチームや事業部門内で情報を共有・活用していたが、共有範囲を複数のプロジェクトチームや会社全体へ広げるという課題があった。

経営企画部 ITサポート室長の岩槻昭彦氏は、「従来のシステムでも情報共有は推進していましたが、競争力の維持・向上のためには最新のシステムが必要です。組織の枠を超えて、情報をスムーズに共有できる新しい仕組みへ、一気に移行することを目指しました」と語る。

新システムで重視した要件は、①社外からもセキュリティを確保して社内情報へアクセスできる利便性、②電子メールなどのシステムを確実に稼働させる安定性、③将来、機能を追加できる拡張性——である。

新日鉄エンジニアリングは、こうした要件を満たす新システムの提案を複数のITベンダーから募る。そして、その中から構築パートナーとして選定したのが、新日鉄ソリューションズだった。岩槻氏は選定理由を、「高いレベルの技術力を備えるとともに、エンジニアリング業務や業界の文化に関する優れた理解力を持つ点を評価しました」と説明する。

システム構築の技術力に加えて NSSOLの業務理解力を評価

新システムでは、複数のMicrosoft製品を組み合わせて、幅広い情報共有を実現する。

要となるのは、Microsoft Office SharePoint Server (MOSS) 2007である。同製品の全文検索やアクセス制御機能を活用すると、適切な権限を持つ利用者が、効率的に情報を共有できるようになる。

社内外と情報を交換するメールサーバーには、Microsoft Exchange Server 2007を採用した。MOSSと効率的に連携するとともに、PCに加え



新日鉄エンジニアリング株式会社 経営企画部長 鈴木 隆氏



新日鉄エンジニアリング株式会社 経営企画部 ITサポート室長 岩槻 昭彦氏



新日鉄エンジニアリング株式会社 経営企画部 ITサポート室 シニアマネージャー 泉 清志氏



新日鉄エンジニアリング株式会社 経営企画部 ITサポート室 宮尾 伸氏

NIPPON STEEL ENGINEERING

新日鉄エンジニアリング株式会社
本社：東京都品川区大崎1-5-1
会社設立：2006年
資本金：150億円（2009年4月1日現在）
売上高：連結3866億円（2009年3月期）
従業員数：単独1214名/連結3355名（2009年3月31日現在）

スマートフォンといった多種多様な端末で利用できる拡張性を備える。

経営企画部 ITサポート室 シニアマネージャーの泉清志氏は「電子メールでは非常に重要な情報が流れる上、当社では社員の半分ぐらいが社外で仕事をします。そのため、多種多様な端末から利用できることが不可欠でした」と語る。

MOSSとExchangeで保管する膨大なデータは、NetAppのストレージ製品で統合管理する。スナップショット技術を使うことで、ハードディスクによる高速なバックアップ/リストアを実現できる。

構築プロジェクトは、2008年11月からスタートした。基本設計および詳細設計といった段階を経て、新日鉄エンジニアリングは2009年2月に新ビジネス情報基盤システムを導入。各種の設定と検証を行った後、2009年5月からMOSSを用いた情報共有・検索機能を、同年7月の本社移転時からExchangeによる電子メール機能の運用を始めている。

■コアテクノロジー

Windows、統合情報ポータル/SNS、高速バックアップ

■システム概要

- サーバー：20台
- クライアント：3339台
- アプリケーション：Microsoft Office SharePoint Server、Microsoft Exchange Serverほか
- 拠点数：7

新日鉄ソリューションズは、Microsoft製品に関する豊富な経験をもとに、スムーズに新システムを構築した。製品起因のトラブルはいくつか発生したものの、MicrosoftやNetAppなどの製品ベンダーと緊密に連携して対処している。

製品の豊富な経験をもとに スムーズに新システムへ移行

経営企画部 ITサポート室の宮尾伸氏は、「2世代前の製品からのバージョンアップでもあり、メールデータは80%も移行できれば成功と考えていました。しかし、実際には100%問題なく移行しています」と語る。最悪の場合は手動移行も想定していた

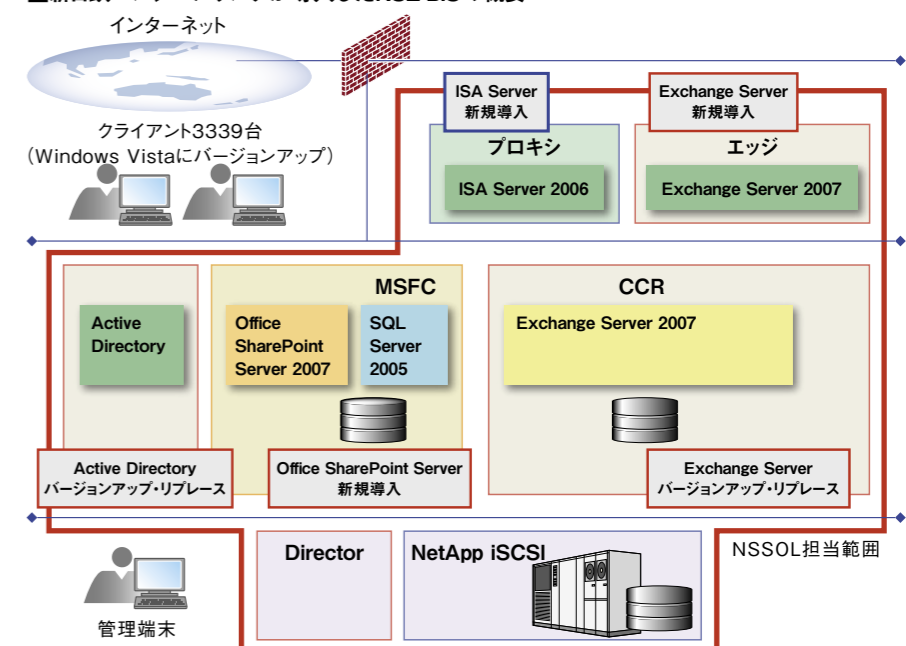
が、移行設計の段階で両社が率直に議論したこともあり、すべてを自動移行できたという。

「NSE-BIS」と名付けた新システムに対する利用者の満足度も高い。岩槻氏は「応答速度も問題なく、今では水と空気のように自然に活用されています」と語る。

新日鉄エンジニアリングは今後、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）やワークフロー、スマートフォンなどからのリモートアクセスといった機能を段階的に追加する。

鈴木氏は「機能や利用方法はこれからは増えますが、新システムはそれに耐える高い拡張性を備えています」と評価している。

■新日鉄エンジニアリングが導入したNSE-BISの概要



CCR：クラスタ連続レプリケーション ISA：インターネットセキュリティアンドアクセラレーション MSFC：マイクロソフトファイルオーバークラスタ